

作成番号:0200

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数:2024-200

\*\*\*\*\*

内容:健康で無症状の 60 歳以上の 4 人に 1 人以上に未診断の心臓弁膜症

出典:Prevalence of asymptomatic valvular heart disease in the elderly population: a community-based echocardiographic study.

European heart journal. Cardiovascular Imaging. 2024 Jun 26; pii: jeae127.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38925103/>

\*\*\*\*\*

血液は本来、心臓の中で一方向に流れるようになっている。心臓の弁は拍動と拍動の間に血液が逆流するのを防ぎ、心臓の機能を最適な状態に保つ働きを担っている。心臓弁膜症は、これらの心臓の弁の 1 つ以上が十分に開かない、あるいは閉じないなどの機能不全に陥り、血液の一部が逆流することで起こる。英イースト・アングリア大学医学部の研究者らは、心臓弁膜症の有病率と無症候性の心臓弁膜症に関する研究を行い、その結果は、「European Heart Journal-Cardiovascular Imaging」に 6 月 26 日掲載された。

英国の健康な 60 歳以上の男女 4,237 人(平均年齢 69.1 歳、女性 54.2%)を対象に、健康に関する質問票に回答した後、診察と心臓超音波検査(心エコー検査)を受けた。28.2%(1,195 人)に心臓弁膜症が見つかり、中等症～重症の心臓弁膜症が見つかった人の割合はわずか 2.4%(101 人)であった。60～64 歳で 21.2%、70～74 歳で 31.5%、85 歳以上で 53.6%と、有病率は年齢層が上がるごとに上昇した(1 歳増加するごとの心臓弁膜症発症のオッズ比は 1.07、 $P < 0.001$ )。

60 歳以上の成人の 28%以上に何らかの種類の心臓弁膜症があるが、その殆どが軽症である。心臓弁膜症の症状としては、息苦しさや胸痛、脱力感、めまい、疲労感、足首や足のむくみ、胸や首の動悸などが挙げられる。本疾患は心臓はより強く血液を押し出そうとし心臓に過剰な負担がかかり、心筋梗塞や脳卒中、そのほかの心疾患のリスクが高まる」。

# Prevalence of asymptomatic valvular heart disease in the older population: A community-based echocardiographic study

Multi-centre prospective cohort study across 3 UK regions: Aberdeen, Birmingham, Norwich

4,237 eligible participants ≥ 60 years old



1,195 individuals (28.2%) with asymptomatic valvular heart disease



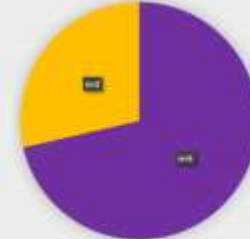
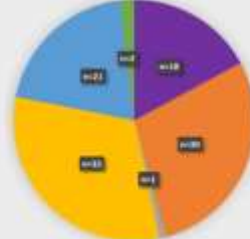
**Mild**  
(n=1094, 25.8%)



**Moderate**  
(n=94, 2.2%)



**Severe**  
(n=7, 0.2%)



■ Aortic stenosis  
 ■ Aortic regurgitation  
 ■ Mitral stenosis  
 ■ Mitral regurgitation  
 ■ Tricuspid regurgitation  
 ■ Pulmonic regurgitation